

深地層の研究施設計画に係る第 2 期中期計画期間中の成果と
今後の計画に関する国際レビューワークショップ
議事録

【開催日・開催場所】

平成 26 年 6 月 18 日（水）～20 日（金）（※20 日は希望者による瑞浪 URL の見学）
アットビジネスセンター東京駅会議室

【主な参加者】

- 国内専門家：16 名
地層処分研究開発評価委員会委員、深地層の研究施設計画検討委員会委員、NUMO
- 国外専門家：9 名
IAEA、Nagra（スイス）、NDA（英国）、SANDIA、LBNL（米国）、KAERI（韓国）
（ファシリテータ（地下研に関する経験豊富な海外専門家 3 名）を含む）、
- JAEA：32 名

【プログラム】

- セッション 1 深地層の研究施設計画の現状
 - ・ 第 2 期中期計画期間の取りまとめの概要
 - ・ 第 2 期中期計画期間の成果（瑞浪／幌延）
- セッション 2 事業者等による要求事項と今後の計画
 - ・ 日本における処分事業・規制の状況とニーズ
 - ・ 深地層の研究施設計画に対する NUMO のニーズ
 - ・ 今後の必須の課題（案）（瑞浪／幌延）
- セッション 3 深地層の研究施設計画の今後の方向性及び必須の課題

【主なレビュー結果】

- 日本の地層処分計画では、複雑な地質環境であるという固有の境界条件に特に留意すべきこと、また公募方式のサイト選定プロセスを採り幅広い地質環境を視野に入れていることなど、その現状を考えると、瑞浪・幌延の両 URL 計画を維持することは、これまでも地層処分の実現に大きく貢献しており、また、将来においてもその重要性は変わらないということができ、国の貴重な資産として認識すべきである。
- 両 URL が国の貴重な資産として位置付けられることは、下記のようなジェネリックな研究開発に係る具体的な成果により明らかである。
 - ・ 複雑な日本の地質環境を評価するためのアプローチとして、その適切性を実際に示していること
 - ・ 現在の知識レベルの過不足を明らかにしているとともに、将来に焦点を当てるべき研究開発テーマを特定していること
 - ・ 汎用性のあるセーフティケースの構築を支援していること
 - ・ 国の地層処分計画に多数の教育した技術者・研究者を輩出していること 等
- 上記のような両 URL の位置づけは、将来においても変わらず重要と考えられ、これらを継続することは、特に下記のような観点で、地層処分事業を進めるうえで、遭遇する様々な事態に対して非常に大きな裕度を与えることが可能となる。

- 計画の柔軟性確保について
 - ✓ 両 URL の継続的な操業は、事業許可申請段階までのサイト選定に対して最大限の裕度を確保することにつながる。
- プロトタイプ操業技術の開発と実証について
 - ✓ 研究開発実証試験は処分場の地下調査施設において実施すべきではない。よって、ジェネリックな両 URL は、重要な役割を担い続ける。
 - ✓ 将来の地下施設において対処する必要性が生じる可能性がある、回収可能性、埋め戻し・閉鎖、モニタリング、過酷的なシナリオの評価等の操業に関する多様な技術の開発と実証に資する試験研究の実施。
- ステークホルダーとの対話促進について
 - ✓ 全て原子力施設はアクセス制限があり、それゆえ瑞浪／幌延の両ジェネリック URL はステークホルダーとの対話にとって極めて重要となる。

以 上